	毘上美局₹	等專門学校	開講年度 令和06年度	(2024年度)	授	業科目	電気電子基礎 Ⅱ			
科目基		, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(=== : 1 :2)	, ,,,,,					
科目番号		0035		科目区分		専門 / 必				
授業形態		授業		単位の種別と単位		寝 修単位:				
開設学科		電子情報		対象学年		度形字位. 1 2				
開設期	1	後期	<u></u>	週時間数		2				
州政州		15-47-43	「入門電気回路(基礎編)」家村道施	7			甘磁電気回収 ノートロー 「甘磁電気			
教科書/勃	数材	一口路ノー	「八」。 トII」、小関修、光本真一(電気書修 これならわかる電気数学」上坂功一	完)参考書: 例題で	ザズ学	さしい雷	を促電が回路ノート1」, 「基促電文 気回路 直流編」 掘浩雄 著(森:			
担当教員	[森 育子								
到達目	標									
電気回路	の基本とな	る法則とその	基礎となる数学を理解し,直流回路	および正弦波交流回路	各の基本	に問題を解	くことができる.			
ルーブ	リック									
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ	ジルのE	安	未到達レベルの目安			
							電気回路の基本となる法則に関す			
評価項目1			電気回路の基本となる法則に関す る応用問題を解くことができる.			則に関す	る基本問題を解くことができない			
							-			
評価項目	12		直流回路に関する応用問題を解く ことができる.	直流回路に関する ことができる	直流回路に関する基本問題を		直流回路に関する基本問題を解く			
			複素数を用いた交流回路の応用的		次同改	の甘木的	ことができない.			
評価項目	13		検系数を用いた文派回路の心用的 な計算ができる.	】 複素数を用いた交 な計算ができる.	2加凹岭	100 全个的	交流回路の計算ができない.			
学科の		項目との関					•			
<u>ナイイの</u> 教育方		スロしい内	NV							
<u> </u>	<u> </u>	- カフはお	て	- 	, <i>t</i> =>b=1					
概要		電子情報	工学科の電気電子系専門科目を学ぶた び複素数を用いた交流回路の表現に	にめの準備として,] ついて学ぶ 基本的た	L 年火に ☆計質す	₋腹修した 1を身につ	電気電子基礎1 に引き続き,父が け 回路素子の基本的な働きについ			
1200		て理解を		> V · C] /3/1 · E-+-= /-(ли I УТ 7.	, (2), (2)	7, 四昭系丁の奉本的な関さに 200			
		全ての内	容は,学習・教育到達目標の< B >(§	専門)に関連する.						
授業の進	め方・方法	「授業計	業計画」における各週の「到達目標」は、この授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする. 度は後期に開講する.							
			標の評価方法と基準>	明明を2回の中間学段	ナントフド	ᄀᇛᄼᄼᆕᄩ	は 日本の法式度を証何			
		投耒訓	画の「到達目標」1~7を網羅した「 成度評価における冬「知識・能力し	可越を2凹の中间試験 の重みは概わ同じとで	かよい	2凹の走界 11占の600	試験で正越し,日信の達成度を評価 6の得占で 日煙の達成を確認できる			
			を成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね同じとする.合計点の60%の得点で,目標の達成を確認で D試験を課す. Nじめ要求される基礎知識の範囲>							
		大教科	・しめ安水とれる季啶和誠の製団/ の学習には, 1年次の数学(三角関数, 複素数など)および「電気電子基礎I」の取得が必要である.							
		1 /1/1//	の子省には、1年火の釵子(二用鬨釣	女, 複素数など) およ	:び「電	気電子基础	楚I」の取得が必要である.			
		<レポー	ト等>		:び「電	気電子基础	楚I」の取得が必要である.			
		くレポー 理解を	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を記		び「電	気電子基础	ĎI」の取得が必要である.			
		<レポー 理解を <学業成	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を፤ 績の評価方法および評価基準>	課す.						
注意点		<レポー 理解を <学業成 後期中間	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を記	課す.						
注意点		<レポー 理解を <学業成 後期中間 ある.	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%,	課す.						
注意点		<レポー 理解を <学業成 後期中間 ある. <単位修	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%, 得要件>	課す.						
注意点		マースを成出 マータ (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学)	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%, 得要件> 績で60点以上を取得すること.	課す. レポートなどの課題(
注意点		く マラス と マラス と マラス と で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%, 得要件> 績で60点以上を取得すること。 ダブノートを取ること。宿題は必ずや	課す. レポートなどの課題(アってくること.	の成績の	の合計を30	0%で評価する.再試験を行うことだ			
注意点		く では とり	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%, 得要件> 績で60点以上を取得すること. なずノートを取ること.宿題は必ずや 素に必要な物学を良につけるために	課す. レポートなどの課題(つてくること. 問題演習を行う、計算	の成績の	の合計を30	0%で評価する.再試験を行うことだ			
注意点		く では とり	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%, 得要件> 績で60点以上を取得すること. なずノートを取ること.宿題は必ずや 素に必要な物学を良につけるために	課す. レポートなどの課題(つてくること. 問題演習を行う、計算	の成績の	の合計を30	0%で評価する.再試験を行うことだ			
注意点		く く後あく く 長専習科な が解業中・位業考はのるす、 で は で が で が で が で が で が が が が が が が が が	ト等> 深めるため,レポートなどの課題を記 績の評価方法および評価基準> ・ 学年末試験の成績の合計を70%, 得要件> 績で60点以上を取得すること. ばブートを取ること. 宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために 気回路論,電気磁気学,電子工学,『 ての基礎となるものである. 用問題集は3年次の電気回路論でも引	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル しき続き使用すること	の成績の 章は必ず レ回路, がある	D合計を30 で で で で で で で で う の 手 で で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	0%で評価する.再試験を行うことだ			
		くと後あくと、「世界習科ない」と、「大理学期る単学備業門す目お質が解業中、位業考はのるす、問が解業の、と講電べ併に、	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を譲るであるため、レポートなどの課題を譲るの評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、得要件> 績で60点以上を取得すること。 ボブートを取ること。宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために「気回路論、電気磁気学、電子工学、「ての基礎となるものである。 用問題集は3年次の電気回路論でも引来る際には、必ず自筆の授業ノート	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル しき続き使用すること	の成績の 章は必ず レ回路, がある	D合計を30 で で で で で で で で う の 手 で で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	0%で評価する.再試験を行うことだ			
	属性・履(く く後あく く 長専習科な が解業中・位業考はのるす、 で は で が で が で が で が で が が が が が が が が が	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を譲るであるため、レポートなどの課題を譲るの評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、得要件> 績で60点以上を取得すること。 ボブートを取ること。宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために「気回路論、電気磁気学、電子工学、「ての基礎となるものである。 用問題集は3年次の電気回路論でも引来る際には、必ず自筆の授業ノート	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル しき続き使用すること	の成績の 章は必ず レ回路, がある	D合計を30 で で で で で で で で う の 手 で で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	0%で評価する.再試験を行うことだ			
授業の	<u>属性・履f</u> ティブラー3	く (後あく) と (大理学期る単学備業門の目が関係して) で (大理学期の単学備業ののでは、関係では、大変では、対象のでは、対象	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を譲るであるため、レポートなどの課題を譲るの評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、得要件> 績で60点以上を取得すること。 ボブートを取ること。宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために「気回路論、電気磁気学、電子工学、「ての基礎となるものである。 用問題集は3年次の電気回路論でも引来る際には、必ず自筆の授業ノート	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル しき続き使用すること	の成績の 算は必ず レ回路, があるる 持参する	D合計を30 で で で で で で で で う の 手 で で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	0%で評価する.再試験を行うことだ			
授業の		く (後あく) と (大理学期る単学備業門の目が関係して) で (大理学期の単学備業ののでは、関係では、大変では、対象のでは、対象	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を議の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、得要件> 績で60点以上を取得すること. 宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために気回路論、電気磁気学、電子工学、気回路論となるものである. 用問題集は3年次の電気回路論でも引来る際には、必ず自筆の授業ノート	課す. レポートなどの課題の でくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル しき続き使用することで勉強したノートを持	の成績の 算は必ず レ回路, があるる 持参する	D合計を30 で で で で で で で で う の 手 で で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	0%で評価する. 再試験を行うことだ で確認すること. 本教科は, 後に学 学, 制御工学など, 電気電子通信系			
授業の □ <i>アク</i> :	ティブラーニ	く (後あく) と (大理学期る単学備業門の目が関係して) で (大理学期の単学備業ののでは、関係では、大変では、対象のでは、対象	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を議の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、得要件> 績で60点以上を取得すること. 宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために気回路論、電気磁気学、電子工学、気回路論となるものである. 用問題集は3年次の電気回路論でも引来る際には、必ず自筆の授業ノート	課す. レポートなどの課題の でくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル しき続き使用することで勉強したノートを持	の成績の 算は必ず レ回路, があるる 持参する	D合計を30 で で で で で で で で う の 手 で で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	0%で評価する. 再試験を行うことだ で確認すること. 本教科は, 後に学 学, 制御工学など, 電気電子通信系			
授業の □ アク	ティブラーニ	<	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 議の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ おずノートを取ること・宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために 義に必要な数学を身につけるために 素の路気にの事気が、電子工学、『 ての基礎となるものである・ 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノート・	課す. レポートなどの課題の ってくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタ) lき続き使用すること や勉強したノートを対	の成績の 算は必ず レ回路, があるる 持参する	の合計を30 ず自分の手 電子機器	0%で評価する. 再試験を行うことだ で確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系			
授業の □ アク	ティブラーニ	<	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を議の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、得要件> 績で60点以上を取得すること. 宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために気回路論、電気磁気学、電子工学、気回路論となるものである. 用問題集は3年次の電気回路論でも引来る際には、必ず自筆の授業ノート	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル しき続き使用することで や勉強したノートを対	の成績(の 算は必ず レ回路, があるる 持参する	か合計を36 で自分の手電子機器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0%で評価する. 再試験を行うことだ で確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系			
授業の	ティブラーニ	マーを成間 修成 N 必講電べ併に 分 と	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 議の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ おずノートを取ること・宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために 義に必要な数学を身につけるために 素の路基礎となるものである・ 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノート・ □ ICT 利用 授業内容	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル はき続き使用すること や勉強したノートを対	の成績の 算は必ず、 があるる 過ごとの 1. 交	か合計を36 で自分の手電子機器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0%で評価する. 再試験を行うことだ で確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系			
授業の □ アク	ティブラーニ	マーを成間 修成 > 必講電べ併に マーを成間 修成 > 必講電べ併に を上 グ 「と 」 「	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 議の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ おずノートを取ること・宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために 義に必要な数学を身につけるために 素の路気にの事気が、電子工学、『 ての基礎となるものである・ 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノート・	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル はき続き使用すること や勉強したノートを持	の成績の 算には必ず。 は必ず。 があする。 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで	か合計を30でである。 で自分の手電子機器 ・	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系図 実務経験のある教員による授業生について理解し,正弦波交流を数			
授業の □ アク	ティブラーニ	マーを成間 修成>と講電で併に 分 と	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること。 がブノートを取ること。宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために「 気回路論・電気磁気学・電子工学・『 ての基礎となるものである。 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノート* □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流起電力の発生	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う.計算電子回路,ディジタル はき続き使用すること や勉強したノートを対	の成績で 算いは があする で で で で で で で で で で で で で	か合計を30 で自分の手電子機器 ・3こと・) の到達目標 の発電力の発 て表すこと	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系型、実務経験のある教員による授業とについて理解し,正弦波交流を数さができる.			
授業の □ アク	ティブラーニ		ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 議の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ おずノートを取ること・宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために 義に必要な数学を身につけるために 素の路基礎となるものである・ 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノート・ □ ICT 利用 授業内容	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル き続き使用すること や勉強したノートを対	の成績(算は必済, はの路, あきずる で交交 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、	か合計を30 で自分の手電子機器 ・3こと・) の到達目標 の発電力の発 て表すこと	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系図 実務経験のある教員による授業生について理解し,正弦波交流を数			
授業の □ アク	ティブラーニ	<	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること。 がブノートを取ること。宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために「 気回路論・電気磁気学・電子工学・『 ての基礎となるものである。 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノート・ □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流起電力の発生 正弦波交流の平均値と実効値	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル はき続き使用すること や勉強したノートを持	の成績で 算いは があする で で で で で で で で で で で で で	か合計を30 で自分の手電子機器 ・3こと・) の到達目標 で表すこと で表すこと な波交流の	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学,制御工学など,電気電子通信系を受けたして、正弦波交流を数さができる.			
授業の □ アク	更	<	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること。 がブノートを取ること。宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために「 気回路論・電気磁気学・電子工学・『 ての基礎となるものである。 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノート* □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流起電力の発生	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル はき続き使用すること や勉強したノートを対	の成績で 算いは があする で で で で で で で で で で で で で	か合計を30 で自分の手電子機器 ・3こと・) の到達目標 で表すこと で表すこと な波交流の	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系型、実務経験のある教員による授業とについて理解し,正弦波交流を数さができる.			
授業の □ <i>アク</i> :	ティブラーニ	一を成間 修成 と対して では では では では では では では で	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記録の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ ばブートを取ること・宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために見るためである・ 元の基礎となるものである・ 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノートを表して、がずりを表して、 正弦波交流起電力の発生 正弦波交流の平均値と実効値 正弦波交流の複素数表現(1)	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル はき続き使用すること や勉強したノートを対 図 遠隔授業対応	の成績の 算い が参 で で で で で で で で で で で で で	の合計を30 で自分の手電子機器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学,制御工学など,電気電子通信系を受けたして、正弦波交流を数さができる.			
授業の □ <i>アク</i> :	更	「一を成間を対する性ができます。」	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記録の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、得要件> 績で60点以上を取得すること・ ばブートを取ること・宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために見気に必要な数学を身につけるために見いまるものである・電気磁気学・電子・第一の登録となるものである・明問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノートを関係では、必ず自筆の授業ノートを関策では、必ず自筆の授業ノートを関策では、必ず自筆の授業ノートを関策では、必ず自筆の授業ノートを関策である。 正弦波交流の電気回路により、必ず自筆の授業ノートを関策である。 正弦波交流のである。 正弦波交流のである。 正弦波交流のである。 正弦波交流のである。 正弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(2)	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル はき続き使用すること や勉強したノートを持	の成績の 算いに が参 で で で で で で で で で で で で で	の合計を30元を30元を30元を30元を30元を30元を30元を30元を30元を30元	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学 実務経験のある教員による授業生について理解し,正弦波交流を数ができる. ○平均値と実効値について理解していて正弦波交流を表現することができ			
授業の □ <i>アク</i> :	更	一を成間 修成 と対して では では では では では では では で	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を 議の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ にがブートを取ること・宿題は必ずや 義に必要な数学を身につけるために 気に必要な数学を身につけるために 気にの基礎となるものである・ 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノート・ □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流起電力の発生 正弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(2) 第4週までの問題演習	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタ) lき続き使用すること や勉強したノートを対 図 遠隔授業対応	の成績で 算いが参 道1式を 2	の合計を30での合計を30での合計を30での手機 (1)の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一	20%で評価する. 再試験を行うことだで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学,制御工学など,電気電子通信系ができる. 2平均値と実効値について理解していて正弦波交流を表現することができる.			
授業の □ アク・ 授業計	更	C C C C C C C C C C	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を議員の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、得要件> 議で60点以上を取得すること・宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために気回路論・電気磁気学,電子工学,電気回路論でも5、東る際には、必ず自筆の授業ノートを取るこのとのである・同問題集は3年次の電気回路論でも5、東る際には、必ず自筆の授業ノートを取るが、のでは、必ず自筆の授業ノートを取るが、のでであるが、のででは、必ず自筆の授業ノートをでは、必ず自筆の授業ノートをでは、必ず自筆の授業ノートをでは、必ず自筆の授業ノートをでは、必ず自筆の授業ノートをでは、必ず自筆の授業ノートをでは、必ず自筆の授業ノートをでは、必ず自筆の授業ノートをでは、必ず自筆の発生では、必ず自を表表表現(1)では、またのでは、表表表表現(2)第4週までの問題演習を表表現(2)第4週までの問題演習を表表表現(2)第4週までの問題演習を表表表現(2)	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタリー き続き使用すること や勉強したノートを打 図 遠隔授業対応	の成 算レ が が が が が が が が が が の で で で で で で で で で で で で で	の合計を30で高計を30での合計を30ででででででででででである。	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学 実務経験のある教員による授業生について理解し,正弦波交流を数ができる. ○平均値と実効値について理解していて正弦波交流を表現することができ			
授業の □ アク· 授業計	更	Note	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること。 。	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う.計算 電子回路,ディジタリ き続き使用すること や勉強したノートを対 図 遠隔授業対応	の成 算レ が参 で で で で で で で で で で で で で	か合計を30 で自電 ここで 直電 ここで 直電 表波 表 同で 回路 ま で で の と で の の の の の の の の の の の の の の の	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系 □ 実務経験のある教員による授業 整生について理解し,正弦波交流を数さができる. ○平均値と実効値について理解してい へて正弦波交流を表現することができる. を理解している. ほ本的な問題を解くことができる.			
授業の □ アク· 授業計	更	C C C C C C C C C C	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記録の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること。 ばブノートを取ること。宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために見るため。 第二の基礎となるものである。 田問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノートを取ること。 「ICT 利用 「ICT 利用 「選挙内容」 正弦波交流の平均値と実効値 正弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(2) 第4週までの問題演習 R,Lからなる回路 Cからなる回路、問題演習 後期中間試験	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディッタル はき続き使用することが 対象したノートを対 図 遠隔授業対応	の成 は四 が参 週 1 式を 2 る 3 る 第 4 第 第 7 成 は四 あす と 交 い 正 複 週 週 受 辺 週 週 で 辺 に 間 で 週 週 週 で 辺 に す の で に 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で で い 正 複 り の で い 正 複 り の で い 正 複 り の で い 正 複 り の し ま で い 正 複 り の し ま で い 正 複 り の し ま で い 正 複 り の し ま で い 正 複 り の し ま で い 正 複 り の し ま で い 正 複 り の で い 正 複 り の し ま で い こ に ま で に ま で い こ に ま で い こ に ま で い こ に ま で に ま で い こ に ま で に ま で に ま で い こ に ま で に ま で に ま で に ま で い こ に ま で に	か合計を30 で自電・この合計を30 で自電・この一の発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20%で評価する. 再試験を行うことだで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学,制御工学など,電気電子通信系ができる. 2平均値と実効値について理解していて正弦波交流を表現することができる.			
授業の □ アク· 授業計	更	C C C C C C C C C C	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記 績の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること。 。	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディッタル はき続き使用することが 対象したノートを対 図 遠隔授業対応	の成 算レ が参 で で で で で で で で で で で で で	か合計を30 で自電・この合計を30 で自電・この一の発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系量とについて理解し,正弦波交流を要ができる. ○平均値と実効値について理解していて正弦波交流を表現することができる. を理解している. 長本的な問題を解くことができる.			
授業の □ アク· 授業計	更	C C C C C C C C C C	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記録の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること。 ばブノートを取ること。宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために見るため。 第二の基礎となるものである。 田問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノートを取ること。 「ICT 利用 「ICT 利用 「選挙内容」 正弦波交流の平均値と実効値 正弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(2) 第4週までの問題演習 R,Lからなる回路 Cからなる回路、問題演習 後期中間試験	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル	の成績のは回いが参して、「一週1式を2る3る第第4第第第6週1式を2る3る第第45週週で週週ででで、1、「一複」の週週ででは、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	か合計を30 で自分のでは、	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系 □ 実務経験のある教員による授業 整生について理解し,正弦波交流を数さができる. ○平均値と実効値について理解してい へて正弦波交流を表現することができる. を理解している. ほ本的な問題を解くことができる.			
授業の □ アク・ 授業計	更	C C C C C C C C C C	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記録の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ ばブノートを取ること・宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために見いの路論、である・のである・のである・のである・のである・のである・のでは、必ず自筆の授業ノートを 正弦波交流のででは、必ず自筆の授業ノートを 正弦波交流のででは、必ず自筆の授業ノートを 正弦波交流のででは、必ず自筆の授業ノートを 正弦波交流のででは、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを では、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の授業ノートを は、必ず自筆の発生 に弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(2) 第4週までの問題演習 R、Lからなる回路 にからなる回路 にからなる回路 とからなる回路 とからなる回路 との解説と復習演習 インピーダンス	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタル	の成 は回 が参 週 1式を 2る 3る 第第 4 第 第 第 6 6 7 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	か合計を30 で自電 という では	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学について理解し,正弦波交流を数ができる. ②平均値と実効値について理解している. ま本的な問題を解くことができる. を理解している. な理解している. な理解している. (ンピーダンスを計算できる. (シピーダンスを計算できる. (シピーダンスを計算できる. (シピーダンスを計算できる. (シピーダンスを計算できる. (シピーダンスを計算できる. (シアン・ション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
授業の □ アク・ 授業計	ティブラー <u>:</u> 画 3rdQ	Control Co	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記録の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ ばブノートを取ること・宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために見ての基礎となるものである・ 用問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノートを取るには、必ず自筆の授業ノートを取るには、必ず自筆の授業ノートを取る際には、必ず自筆の授業ノートを表もでは、必ず自筆の授業ノートを表もでは、必ず自筆の授業ノートを表もである。 「正弦波交流のである」 「正弦波交流のである。 「正弦波交流のである。 「正弦波交流のである。 「正弦波交流のである。 「正弦波交流のである。 「正弦波交流の複素数表現(1) 「正弦波交流の複素数表現(2)第4週までの問題演習 展、しからなる回路 「の問題演習 展、しからなる回路 「の問題演習 を関中間試験 「中間試験の解説と復習演習 インピーダンスアドミタンス	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う.計算電子回路,ディジタル はき続き使用することが 図 遠隔授業対応	の成 は四 が参 週 1式を 2る 3る 第 4 4 第 第 第 5	か合計を30 で自電 と かん で	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学について理解し,正弦波交流を数ができる. シーンできる. シーンでできる. シーンでできる. シーンでできる. シーンでできる. シーンでできる. シーンできる. シーン・フェミタンスを計算できる. シーン・フェー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー・ジー			
授業の □ アク	更	Control Co	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記録の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ にがブートを取ること・宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために同気の路嫌となるものである・のである・のである・のでは、必ず自筆の授業ノート・ 「ICT 利用 「ICT 利用 「ICT 利用 「正弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(2) 第4週までの問題演習 R、Lからなる回路 Cからなる回路 Cからなる回路 (加) に対象の解説と復習演習 インピーダンスアドミタンス 交流回路の電力	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算電子回路, ディジタ) lき続き使用することが 図 遠隔授業対応	の成	か合計を30 で自電 ここの 一角電 ここの 一角で ここの 一角で ここの 一角で ここの 一角で ここで 回じで 回じで 回じで のの ここで 同じの のの ここで 日本の できる ここで ここで こうじゅう こう こうじゅう こうじゅう こう こうじゅう こうり こうじゅう こうじゅう こうじゅう こうじゅう こうじゅう こうじゅう こう こうり こうじゅう こう こう こうり こう	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学生について理解し,正弦波交流を数ができる. ○平均値と実効値について理解していて正弦波交流を表現することができる. ○本的な問題を解くことができる. を理解している. を理解している. を理解している. 「ンピーダンスを計算できる. 「ンピーダンスを計算することができる. 「ンピーダンスを計算することができる.			
授業の □ アク· 授業計	ティブラー <u>:</u> 画 3rdQ	Note	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記 續の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること。 対ブノートを取ること。宿題は必ずや義にの路論、電気磁気学,電子工学,電工問題集は3年次の電気回路論でも弓来る際には、必ず自筆の授業ノートを取るものである。 「正弦波交流起電力の発生」 正弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(2) 第4週までの問題演習 R、Lからなる回路 Cからなる回路 Cからなる回路 Cからなる回路 Cからなる回路 (2) 第4期中間試験 中間試験の解説と復習演習 インピーダンス アドミタンス 交流回路の電力 交流回路の電力 交流回路に関する総合問題演習(1)	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算 電子回路, ディジタ はき続き使用すること や勉強したノートを対 図 遠隔授業対応	の	か合計を30 「自電」 この 一の では 表 でで 一の で 一 で 一 で 一 で 一 で 一 で 一 で 一 で 一 で	7、アピーダンスを計算できる。 「な理解している。 「を理解している。 「な理解している。 「な理解している。 「な理解している。 「な理解している。 「な理解している。 「な理解している。 「な理解している。 「な理解している。 「などーダンスを計算することができる。 「などーダンスを計算することができる。			
授業の □ アク· 授業計	ティブラー <u>:</u> 画 3rdQ	Note	ト等> 深めるため、レポートなどの課題を記録の評価方法および評価基準> ・学年末試験の成績の合計を70%、 得要件> 績で60点以上を取得すること・ にがブートを取ること・宿題は必ずや義に必要な数学を身につけるために同気の路嫌となるものである・のである・のである・のでは、必ず自筆の授業ノート・ 「ICT 利用 「ICT 利用 「ICT 利用 「正弦波交流の複素数表現(1) 正弦波交流の複素数表現(2) 第4週までの問題演習 R、Lからなる回路 Cからなる回路 Cからなる回路 (加) に対象の解説と復習演習 インピーダンスアドミタンス 交流回路の電力	課す. レポートなどの課題の つてくること. 問題演習を行う. 計算 電子回路, ディジタ はき続き使用すること や勉強したノートを対 図 遠隔授業対応	の	か合計を30 「自電」 この 一の では 表 でで 一の で 一 で 一 で 一 で 一 で 一 で 一 で 一 で 一 で	20%で評価する. 再試験を行うことがで確認すること. 本教科は,後に学学,制御工学など,電気電子通信系学生について理解し,正弦波交流を数ができる. ○平均値と実効値について理解していて正弦波交流を表現することができる. ○本的な問題を解くことができる. を理解している. を理解している. を理解している. 「ンピーダンスを計算できる. 「ンピーダンスを計算することができる. 「ンピーダンスを計算することができる.			

	16	周							
モデルコス	アカリキュ	ラムの学習	内容と到達	目標					
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
基礎的能力		物理	電気	オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。			3		
	自然科学			抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。			3		
				ジュール熱や電力を	対めることができ	きる。		3	
専門的能力	分野別の専 門工学	電気・電子 系分野	電気回路	電荷と電流、電圧を説明できる。			3		
				オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。			3		
				キルヒホッフの法則を用いて、直流回路の計算ができる。			3		
				合成抵抗や分圧・分流の考え方を用いて、直流回路の計算ができる。			3		
				ブリッジ回路を計算し、平衡条件を求められる。			3		
				電力量と電力を説明し、これらを計算できる。			3		
				正弦波交流の特徴を説明し、周波数や位相などを計算できる。			3		
				平均値と実効値を説明し、これらを計算できる。				3	
				正弦波交流のフェーザ表示を説明できる。				3	
				R、L、C素子における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。			3		
				フェーザ表示を用いて、交流回路の計算ができる。			3		
				インピーダンスとアドミタンスを説明し、これらを計算できる。			3		
		情報系分野	その他の学習内容	オームの法則、キル 行うことができる。	レヒホッフの法則を	を利用し、直流回路	の計算を	4	
		1月報本刀到		トランジスタなど、の基本的な特徴にて			導体素子	4	
評価割合									
試験		課	題	相互評価	態度	発表	その他	合計	
総合評価割合	1 70	30)	0	0	0	0	100	
配点	70	30)	0	0	0	0	100	